

# 市民生活犠牲の「行革」と大型開発優先をやめて、市民の暮らし、福祉、教育 第一の市政に転換を!

とのむら健一市議は、一般質問で、4期目となる石阪市長の「当面の施政方針」と政治姿勢をただしました。とくに、公共施設の削減と大型開発優先はやめて、地方自治体本来の役割(住民の福祉増進)を果たすべきであると要求しました。



殿村 健一

石阪「行革」に、市民と議会がNO!

「5カ年計画17-21」では、コスト削減を目的に、文学館や博物館、鶴川図書館、さるびあ図書館の廃止の検討が示されました。町内会を中心に広範な市民が立ち上がり、「4つの公共施設」の存続を求める請願が、合計2万8千人の署名とともに市議会に提出され、全会一致(内2件は多数)で採択されました。石阪「行革」(公共施設削減計画)は、市民からも議会からもNO!の審判を受けたのです。



本町田にある市立博物館  
市立博物館と隣接する遺跡公園

公共施設「廃止を含めた検討は続ける」市民の願いと議会の決定に背く答弁

とのむら健一市議は、採択された請願の趣旨に沿って「4つの公共施設」の存続を求めました。政策経営部長は、請願採択は「非常に重く受け止めている」と述べた一方で、「存続が廃止か」は検討中であると、従来の方針は変えず、市民の願いと議会の決定に背を向ける答弁をしました。(\*「公の施設」とは「地方自治法第244条第1項「住民の福祉増進の目的でその利用に供するための施設」)



鶴川団地商店街内の鶴川図書館

知的な文化活動の支援こそ、市民文学館の役割「答申」の趣旨を生かし、存続、発展を

「今後10年の町田市民文学館のあり方について」の答申(17年3月)が、市教育委員会に取られました。「答申」は、今後10年間の取り組みについて、「柔軟で質(クオリティ)の高い文学館を目指してほしい」と述べるなど、存続を前提にさらなる充実を求めています。



市民文学館「ことばらんど」

「存続」を決定し、市民不在の「5カ年計画17-21」は抜本的見直しを

文学館、博物館、2つの地域図書館は、長年、地域住民に愛用され、社会教育施設としての役割を十分に果たしてきました。市民が存続を求めた「4つの請願」は、いずれも市議会が採択しました。石阪市政は、議会の結論に従い、これらの公共施設の存続を決定すべきです。そして「町田市5カ年計画17-21」の市民不在の内容は抜本的に見直すべきです。



さるびあ図書館とそよかぜ号

採択された市民の「請願」『文学館』、『博物館』、『鶴川図書館』、『さるびあ図書館』は存続を!



## 「4つの森」開発にさらに、町田駅周辺で大型再開発が200億円



工事中の南町田グランベリーパーク

モノレール延伸にともない3つの町田駅とバスターミナルなど巨大再開発が

「新たな交通網整備を前提にしたまちづくり」(当面の施政方針)を打ち出した石阪市長。モノレールの新駅の小田急JRと3つの町田駅が1か所に集中します。さらに、バスターミナル再編整備などで、町田駅前の乗降客は急激に増加することが明らかになりました。モノレール駅の設置と交通ターミナル機能再編による巨大再開発が行われます。商店街やまちの環境、市の財政負担への影響を厳しくチェックしなければいけません。



モノレール駅が予定されるJR町田駅前

大型ハコモノ熱中やめて、市民の暮らし第一に転換を

石阪市政は、「4つの森開発」にくわえ、「交通ターミナル」や「新たな集客施設」の再開発と大型ハコモノ建設熱中病が止まりません。莫大な税金投入となる大型開発優先をやめて、市民の暮らし、福祉、教育第一に転換すべきです。



身近な公共施設減らし、鶴間公園、野津田公園などで大型プロジェクト推進

石阪市政は、「5カ年計画17-21」で公共施設削減計画を進める一方、200億円の「4つの森」大型プロジェクトを推進しています。東急電鉄との共同開発「南町田グランベリーパーク」に73億8千万円、野津田公園内陸上競技場の観客席5千席増設などには75億3,600万円(合計約120億円)。市立博物館を廃止し、(仮称)国際工芸美術館整備に17億5,800万円、芹ヶ谷公園芸術の杜第1期整備に6億3,300万円、薬師池公園四季彩の杜整備には25億4,300万円投入する計画です。



市立陸上競技場とスタンド

「コンベンション?」「文化芸術ホール?」「アリーナ?」「文化芸術ホール?」「文化芸術ホール?」。クルクル変わる市長の「夢」

石阪市長が4年前の選挙公約にした「コンベンションホール」建設が、3か月後には、「文化芸術ホール」に変更しましたが、見通しが立たずに計画は頓挫どころが、昨年第3回定例会では、モノレール延伸に合わせ、「ホールあるいはアリーナ」を検討すると答弁。今議会で、担当部長が、小田急町田駅北口再開発として「どれにするか検討中」と答えたのに対して、石阪市長は、「文化芸術ホールをつくる」などと、市長の答弁はクルクル変わっています。100億円規模の市長の身勝手な「夢」を許してはなりません。



再開発が計画される小田急町田駅北口